

平成二十九年 青年教学3級・初級 試験練習問題

「教学入門」

「1」法華経

① 諸法実相と久遠実成

後ろの「語群I」から正しい語句を選び()の中に書きなさい。

(1) 日蓮大聖人は「諸法実相抄」で次のように仰せです。「下しも地獄じごくより上かみ仏界ぶつがいまでの(①)の依えい正しょうの当体たうたい・悉ことごとく一法いつぽうものこさず(②)のすがたなり」

(2) 前の御文を通解した時に、次の各部分はそれぞれ「諸法」と「実相」のどちらに当たりますか。

● 地獄界から仏界までの十界の衆生とその環境世界・・(③)

● すべて妙法蓮華経の現われである・・(④)

(3) 諸法実相が説かれたことによつて、(同①)の衆生そのものが、本質的にすべて(同②)

(4) 実相として平等であることが示され、どのような境涯にあつても成仏が原理的に可能となりました。

(4) 方便品では、「衆生に仏ぶつ知ち見けんを開かせ、示し、悟らせ、仏ぶつ知ち見けんを得る道に入らせる(開かい示じ悟ご入にゅう)」ことが仏たちが世の中に出現する根本の目的であると説かれます。この仏が出現する根本目的のことを(⑤)

()と言います。

(5) 同じく方便品には「我が如く等しくして異なること無からしめん」と説かれ、自身と等しい仏の境涯に到達させることこそ、仏たちの根本の願い

であり仏法の根本目的なのです。この法華経の経文を5文字で(⑥) ()と言います。

(6) 法華経本門の中心的な法理は(⑦) ()であり、如来寿命品第十六の中で説かれます。

(7) これによって、釈尊が今世で初めて成仏したというこれまでの考え方である(⑧) ()を打ち破り、釈尊は実は(⑨) ()という、はるか久遠の昔に成仏して以来、この娑婆世界しやばに常じょう住じゅうする仏であることが明かされます。

(8) 久遠実成の釈尊は、これからも菩薩としての寿命が永続しているの、本当は入滅することはないのだが、一旦は入滅した様よう相そうを方便として示します。このことを(⑩) ()と言います。

(9) 入滅してもなお永遠の仏は、九界の凡夫たちが住む娑婆世界しやばに常じょう住じゅうしており、人々が一心に仏を求めて身を惜しまず仏道に励むなら、いつでも姿を示すと説きます。このように娑婆世界しやばこそ仏の住む常じょう寂じやく光こう土どに他ならないと明かしたことを(⑪) ()と言います。

「語群I」

- | | |
|---------|---------|
| A 五百塵点劫 | B 諸法 |
| C 実相 | D 方便現涅槃 |
| E 久遠実成 | F 十界 |
| G 妙法蓮華経 | H 如我等無異 |
| I 出世の本懐 | J 始成正覚 |
| K 娑婆即寂光 | |

「2」日蓮大聖人と法華經

①末法の法華經の行者

後ろの「語群Ⅲ」から正しい語句を選び()の中に書きなさい。

(1) 日蓮大聖人は、法華經の經文通りに実践し、大難を越えて妙法を弘通した御自身のことを、「(1)

()と仰せになっています。

(2) (2) () 品第十には、「如来の現に在す(2) 猶お(3) ()多し。況んや(4) ()の後をや」と説かれています。法華經を説く時には

積尊がいる時代にあつても、なお怨嫉(反発・敵対)が多い。まして(5) ()の時代となれば、積尊の時代

以上の怨嫉がある、という意味です。この經文通りの激しい怨嫉の難を受けたのは日蓮大聖人だけです。

法師品第十に説かれるこの經文八字を書きなさい。

經文(1)

(3) (6) () 品第十一では、

(7) () を説いて、滅後に法華經を受持し、弘めることが困難であることを強調します。なぜ法華經を弘めることが難しいのかといえば、現実の上で迫害、反発などの「(8) ()」が起こるからです。このように説いて、至難中の至難事である滅後悪世の法華經弘通を勧める仏意を強く示しているのです。

(4) (9) () 品第十三には、悪

世末法の時代に法華經を弘める者には三種類の強烈な迫害者、すなわち(10) () が出現することが示されています。

(5) 次のそれぞれは三類の強敵のうちどれに当たりますか。() にその名称を書きなさい。

■法華經の行者を迫害する出家者・・・()

■表面的には、人々から聖者のように尊敬を集めているが、本心は、自分の利益のみを貪り、悪心を抱いて、讒言ざんげんにより権力者を動かして、法華經の行者を弾圧させる・・・()

■法華經の行者を迫害する、仏法に無知な衆生・・・()

(6) 大聖人の時代に、僭聖増上慢にあてはまるのは誰ですか。名前を書きなさい。

名前(1)

(7) 大聖人は、(11) () 流罪と

(12) () 流罪の二度にわたる流刑を受けることで、勸持品に説かれる、「何度も、所を追われること」という意味の經文を身で読んだことになりました。この經文五文字を書きなさい。

經文(1)

(8) 日蓮大聖人は、まさしく、經文に説かれた通り、(13) () による大難にあわれました。末法における大聖人の御出現とそのお振る舞いを予言した經典が(14) () なのです。逆に、大聖人が、(同14) () を身をもって読まれた(身読)

ことよって、(同14) () が虚妄にならずにすみ、積尊の言葉が真実であることを証明したことになります。

「語群Ⅲ」	
A 六難九易	B 法師
C 滅後	D 怨嫉
E 三類の強敵	F 滅度
G 見宝塔	H 伊豆
I 難	J 法華經
K 勸持	L 佐渡
M 三類の強敵	N 法華經の行者

「解答」	① 末法の法華經の行者」
(2)	經文【猶多怨嫉・況滅度後】
(5)	右から順に、道門増上慢、僭聖増上慢、俗衆増上慢
(6)	名前【極樂寺良觀】
(7)	經文【数数見擯出】

② 上行菩薩

後ろの「語群Ⅳ」から正しい語句を選び()の中に書きなさい。

(1) 日蓮大聖人が、ただ一人立ち上がり、末法の法華經の行者として、命を懸けて妙法の弘通に励まれたことは、大聖人が積尊から末法弘通の(1) ()を受けた(2) ()に当たることを証明しています。(同②) ()は積尊滅後に積尊に代わって人々を成仏へと教え導く「(3) ()」です。

(2) 法華經如来神力品第21には、上行に率(ひき)いられた地涌の菩薩が、現実世界で人々の闇を照らす(4) ()

()であると言われます(5) ()。また従地涌出品第15では、世間という泥の中にあつて、清らかな覺りの華を開き実をならせる(5) ()であると説かれます(6) ()。

これら上行菩薩のはたらきを發揮さ

れた日蓮大聖人は、自ら「(6) ()」と名乗られて、法華經の行者として民衆救済の行動を貫かれました。(3) 日蓮大聖人は、外面の姿やはたらきである(7) ()においては、積尊から付嘱を受けた、地涌の菩薩の上首である(8) ()です。これに対して、大聖人の内心の覺りの境涯である(9) ()においては、(10) ()

私たちが南無妙法蓮華經の(11) ()を信じて自身の内なる妙法を開き顕すことは、自身に(12) ()の仏の生命境涯を現すことなのです。

「語群Ⅳ」	
A 内証	B 御本尊
C 末法の教主	D 蓮華
E 太陽・月	F 久遠元初
G 上行菩薩	H 外用
I 付属	
J 久遠元初の自受用報身如来	
K 上行菩薩	L 日蓮